

平成 29 年 11 月 27 日

上場会社名：株式会社アルファクス・フード・システム

（URL <http://www.afs.co.jp/>）

代表者名 代表取締役社長 田村 隆盛

問合せ先 執行役員管理部長 菊本 健司

電話番号 0836-39-5151

1 今後 3 ヶ年の中期経営計画

(1) 当中期経営計画提出時点における前事業年度の総括
(計画の達成状況、成果及び今後の課題)

平成29年9月期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな景気回復基調で推移したものの、世界経済の不確実性の高まりから、依然として先行き不透明な状況が続いております。

一方、当社の主要販売先である外食市場におきましては、消費者の節約志向が根強く、食材価格の高騰や、人材確保の競争激化による人件費の高騰など、当社の事業領域においては、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社は、大手外食チェーンを中心に、従来からのASPサービスを核としたPOSシステム（当社製品名：「FOODα6000」、「FOODα4000」）、オーダーリングシステム（当社製品名：「オーダーショット」）など、トータルソリューションシステムを提供しつつ、粗利益率の改善を進める為、平成27年9月期より「原点回帰3ヶ年計画」の開発ビジョンを策定し、ハードウェア販売の比率を下げ、ソフトウェア販売の比率を徐々に高めております。

このような方針のもと、規模に関わらず、外食のあらゆる業態店舗、または中食である仕出し、弁当業及び給食事業者がご利用いただけるサービスとしてパッケージ型の基幹業務システム「飲食店経営管理システム(R)」を提供しております。

その結果、売上高は、2,087,116千円（前事業年度比7.5%減）と減収となりました。利益面に関しましては、営業利益136,122千円（前事業年度比29.0%減）、経常利益125,089千円（前事業年度比23.4%減）にとどまったものの、当期純利益133,277千円（前事業年度比4.7%増）は増益となりました。

事業別売上高は、次のとおりです。

	平成28年9月期	平成29年9月期	
	金額（千円）	金額（千円）	前年同期比（%）
ASPサービス事業	1,099,431	1,103,410	100.4
システム機器事業	1,028,132	815,856	79.4
周辺サービス事業	128,058	167,849	131.1
合計	2,255,622	2,087,116	92.5

(2) 中期経営計画の概要及び策定の背景

当社は、「食文化の発展に情報システムで貢献する」ことを事業ポリシーとして、外食業界に特化した「ASP型基幹業務システム」の提供から、POSシステム（当社製品名：「FOODα6000」、「FOODα4000」）やオーダーエントリーシステム（当社製品名：「オーダーショット」）、テーブルオーダーシステム（当社製品名：「テーブルショット」）といった「システム機器」の販売及び周辺サービスの提供までをワンストップで行い、特に食材ロス、人件費のコントロールなどといった、経営コストのロスを徹底追求するためのシステムを中心として、外食業界に提供しております。

現在、外食業界を取り巻く環境は、円安の影響や平成31年に予定されている消費増税、深刻な人材不足などにより年々厳しさを増しており、より確実な経営コストの削減が必要となっております。

平成27年9月期（第22期）より、あらゆる食材ロスを徹底追及できる、「飲食店経営管理システム(R)」を本格的に販売開始しておりますが、それ以前の「ASP型基幹業務システム」の総合統合版である「FOOD GENESIS」と融合させた、比類ない“食”企業向け統合基幹業務システムが平成29年9月期（第24期）で完成いたしました。また、平成29年1月には、「飲食店経営管理システム(R)」拡張機能である「自動発注システム」の技術特許を取得し、今後の主力サービスとして益々強力に推進する環境が整っております。

また第24期には、遅れていた新型オフグリッドデータセンターが完成し、これに合わせて、平成30年9月期にはニーズの高まっている決済多様化への対応として、「WeChatPay」、「Alipay」、「LINE Pay」決済を始めとしたサービスも開始予定です。

すべての心臓部とも言えるデータセンターは、災害には世界で最も強いとされる、監視／事務所棟を含めたすべての電源を自社で生産／消費する、国内初の技術によるオフグリッド型データセンターとなっております。

今後は、国内で最も強固なこのデータセンターを活かし、この技術を用いた外食産業向けのエネルギーコスト削減を、当社コスト削減サービスカテゴリーの一貫として、提供する予定でございます。

システム機器事業におきましては、外食業界の深刻な人手不足と、接客サービス向上意識の高まりを背景に、お客様が自ら注文を行うセルフオーダーシステム端末（当社製品名：「テーブルショット」）などの需要が高まっているものの、円安などの影響によって仕入コストが上昇傾向にあり、今後もさらなる仕入れコストの増加が予測されます。

こうした課題の対応策としまして、今後はこれまでの専用機型で進めていた当社製品について、汎用機型へのソフトウェアの提供にシフトすることにより、粗利益率の改善を図っております。

(3) 事業の進捗状況及び今後の見通しならびにその前提条件

平成27年9月期（第22期）より本格的に販売を開始している「飲食店経営管理システム(R)」ならびに、大型展示会への積極的な出展、販売代理店政策、業務提携等の施策により、過去最多の見込み顧客の増加を記録しておりましたが、第24期後半よりこうした当初の中堅見込み顧客の受注準備が整いはじめており、今後のソフトウェアパッケージシステムである「飲食店経営管理システム(R)」の売上増加により、ここ数年推進してきておりました、ハードウェアとソフトウェアのバランスの

整った、収益率の向上が見込まれております。

平成30年9月期通期の業績見通しにつきましては、主として「飲食店経営管理システム(R)」の新規受注及び店舗システム機器を中心とした新規及び追加受注を勘案し、売上高2,260百万円（前事業年度比8.3%増）、営業利益220百万円（前事業年度比61.6%増）、経常利益190百万円（前事業年度比51.9%増）、当期純利益146百万円（前事業年度比9.5%増）を見込んでおります。

2 今期の業績予想及び今後の業績目標

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成27年9月期（実績）	2,204	63	52	48
平成28年9月期（実績）	2,255	191	163	127
平成29年9月期（実績）	2,087	136	125	133
平成30年9月期（予想）	2,260	220	190	146
平成31年9月期（目標）	2,400	380	351	262
平成32年9月期（目標）	2,550	440	409	308

事業別の売上高

① ASPサービス事業

(単位：百万円)

	平成29年9月期（実績）	平成30年9月期（予想）
ASPサービス事業	1,103	1,400

「飲食店経営管理システム(R)」新規受注の拡大により月額サービス料も順調に推移するものと想定しております。

② システム機器事業

(単位：百万円)

	平成29年9月期（実績）	平成30年9月期（予想）
システム機器事業	815	560

専用機型から汎用機型にシフトすることにより、売上は低下するものの、利益率の向上が見込めることと、価格競争力アップによる案件の増加、併売品である機器販売においても好影響をもたらすものと想定しております。

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上